

第1回防災教育チャレンジプラン

わくわく！ドキドキ！サバイバル体験！

報告書



日程：平成16年8月3日（火）～4日（水）

場所：名古屋市立東山小学校体育館・グラウンド

●主催●

東山学区連絡協議会

●企画・運営●

特定非営利活動法人レスキューストックヤード

● 1 日 目 ●

■ 開会挨拶

□ 東山学区連絡協議会会長／杉浦氏

学区として毎年やる防災訓練、今年は小学生も含めて勉強をする。色々なことを覚えて家に持ち帰り、有事の際はここにいる人達で協力してやっていこう。

□ 千種消防署長／鈴木氏

消防署の仕事はあるが、阪神規模の地震では皆のところへ行けない。消防団や地震防災組織の人達が頼りであり、何より小学生の参加は心強い。助けてもらう立場から、リードする立場へ進んでほしい。

□ 千種区地域振興課長／勝村氏

今回の企画は本地区では初めての試み。嬉しく思う。夏休みにいい体験であり、今日学んだことを大人になって役立てて下さい。

□ 東山小学校長

学校が目指す生きる力として、実際の勉強ができる。これを機会に、防災について学び、地域のみなさんと仲良くなってほしい。

■ 非常持ち出し袋を考えよう！

小学生と地域の方々が6つの班に分かれて、非常持ち出し袋の中身を考える。小学生には前もって非常の場合に必要なと思われるものを袋につめて持ってくるよう伝えてあり、それを見せ合いどんなものが役に立つのかを話し合った。地域の方には、小学生の視点からは見えなかった点をアドバイスして頂いた。



<班毎ディスカッションの様子>

模造紙に必要なものをまとめながら足りないものを考え、最後に班毎に発表を行った。

<発表例ー必要だと思われるもの>

・水と食料、食器 ・救急用具 ・気温調節物 ・電池 ・トイレの作り方 ・衣類 ・雨具や野外用品 ・おもちゃ ・ペット ・ホイッスル ・洗面用具



<発表風景>

■ 炊き出し体験



<薪を割り火を起こす>



<米と水をハイゼックスの袋に詰める>

サバイバル体験の一環として小学生自ら食事の用意を体験する。ご飯を作るハイゼックス班とアルファ米班、味噌汁班、ほのぼののあかりを作る班、

高齢者を迎えに行く班と分担し各々作業を行った。火をおこすところから始めるため、料理には斧や包丁の扱いが必要となり、消防団や地域の方々の指導の下、自分たちで食事を作る達成感を味わってもらった。食事は皆そろって外で取り、子供から高齢者まで一緒に話をするいい機会となった。



<食事風景>

■ 東山学区の歴史と地震の話

加藤幹雄さんによる東山学区の歴史の話聞いた。昭和4年に区画整理が始まった80年前の風景から始め、50年前から10年前まで区切り毎にその歴史を振り返る。

ここは土器の生産中心地だった。300もの陶器を焼いた釜の跡がある。東山動物園は昭和初期に名古屋市が地主の寄付を受けてつくった。象が散歩していた話。40年前は路面電車が東山公園へつながり、東山小学校は校舎が全て2階建てへ変わった。30年前には2,000人以上いた生徒も、20年前には半分になり、10年前には開校50周年式典を開催した。少年野球で優勝したり音楽コンクールで優秀賞をとった過去もある。この緑豊かな東山を愛し続けていってほしい。

■ 地震の話

レスキューストックヤード栗田氏による地震の話。プレートの運動による地震の起こる仕組み、どのくらい揺れるのかという震度、家の中の被害などを説明した。火事やブロック塀が倒れている写真、自動販売機が倒れている写真はインパクトを呼んだ。地震から命を守る方法として、丈夫な家に住み、室内の転倒防止を行い、まちをよく知ってまちの人と仲良くすることが必要だ。もし地震が発生したら、危険な場所に近寄らず落ち着いて行動しなければならない。

■ ほのぼのあかり点灯、就寝の支度

夕食調理時に1つの班が作ったほのぼのあかりに火を点ける。容器とサラダ油、アルミホイルとティッシュペーパーで作れる簡易的な非常あかりだ。体育館内の電気を消し、このあかりだけで寝る用意を済ませ、就寝。

●2日目●

■ 防災一座の協力による朝食「かんぱんをおいしく食べよう！」

非常時に簡単に用意できる食事として、かんぱんを防災一座が用意した。メニューは、ジャムやピーナッツバターをつけたかんぱん、かんぱんを入れたコンソメスープ。これだけでも立派な食事になるが、多少手を加えればさらにバリエーションのある食事が用意できることを、防災一座が写真資料を見せながら説明してまわった。



<グループ毎の食事の様子>

■ 自分の家の中は安全か？



<中央のぶるる君を囲む小学生>

自分の家、寝ている部屋が安全かを小学生自ら話し合う。まず、ぶるる君を用いてどんな構造の家が揺れに強いのかを実験する。部屋数が多く壁や柱が多い構造が強度があることが分かった。次にPTAによる寸劇で、家屋倒壊時など人が埋もれた場合にホイッスルを持っておくと助けてもらえることを示した。



<家屋倒壊時を想定した寸劇>

その上で、グループに分かれ、各々自分の寝ている部屋のレイアウトを方眼紙に記入し、その室内が地震時に安全なのかを話しあった。最後にどんな対策が必要なのかを確認し、グループ毎に発表した。



<自分の部屋を書き出す>

<発表例ー危険なモノとその対策>

- ・ タンス→倒れないよう固定
- ・ ガラス→割れないようシートを貼る
- ・ エアコン→下に寝ない
- ・ ベッド→まわりにモノを置かない
- ・ その他家具→逃げ道を確保する配置

<総論ーRSY栗田氏>

1日の1/3はベッドの中にいる。寝ている時に襲われるのが最も怖い。布団のところに防災ずき

んや笛、スリッパを用意し、倒れやすいものを寝ている近くに置かないことが大事だ。最低限、寝る部屋は気を遣い、アイデアを出すだけでなく実行していこう。

<小学生による標語>

- (1班) 笛を用意しておこう (2班) 地域の人と仲良くする～挨拶から始めよう (3班) 枕元にふえとスリッパを用意する (4班) 非常食、かんぱんを用意する (5班) ふえを準備する (6班) 整理整頓をして逃げ道を作ろう

■ ふりかえりとまとめ

<ふりかえりシートによる小学生感想例>

- ・ みんなでごはんを作ったりするのが面白かった
- ・ かんぱんは意外とおいしかった
- ・ 地震のことや東山のことが分かった
- ・ 友達と寝るのが楽しかった
- ・ 避難の準備もしておこうと思った
- ・ 地震は対策をすれば全然こわくない
- ・ また参加したい

<ふりかえりシートによる地域住民の感想例>

- ・ 家の非常持ち出し袋の中身を見直す良い機会になりました
- ・ 身近に危険な箇所が沢山有ることを痛感した
- ・ 町民の訓練、意識の向上が必要
- ・ 子供たちが自分で考え、とてもいい機会になった
- ・ 連絡がとりあえる様な人間関係を作る

■ 閉会挨拶

□ 東山小学校長／武藤氏

子供たちが災害そのものを学べた。協力してもらった地域の人、PTA、ボランティア。大きくなったらこんな人になりたいと思っている子供が3人くらいいればこの企画の甲斐がある。

□ 東山学区連絡協議会副会長／渡辺氏

この地域は地震が少なく、この体験は非常に勉強になったと思う。今後とも何かにつけて思い出してみても、非常時は冷静に判断して行動して下さい。他の事にも役立つだろう。夏休み、遊んで勉強して楽しんで下さい。

(終)